工		 等専門学校	開講年度	令和03年度 (Z		授業科目	環境工学Ⅱ		
		寸寸 门丁仪			2021年/支)	1X */ 11'			
科日番号	K IHTK	0039			科目区分	専門 / 選	學択		
授業形態		授業			単位の種別と単位				
			(都市・環境系共	 共通科目)	対象学年	5			
開設期		後期				2	2		
教科書/教	材	浮田正夫・ Wilev&Sor	 河原長美・福島武 ns Inc,2003	忧彦編著「環境保全	週時間数 2 工学」技報堂出版/Peter H.Raven,Linda R.Berg:"Enviroment",John				
担当教員		栗山 昌樹	.5 16/2005						
到達目標	<u> </u>								
きか対策 2)リスク 3)エネル	を考えるこ。 アセスメン ギーの消費:	とができる。 トについて理解	こし、リスクの評価	mと対策のあり方を	きまることができ	る。	し、快適な環境をどのように創造すべ 概要を説明できる。		
ルーブ!	<u> </u>		1						
			理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1			環境管理の手法、リスクの概念、 LCAについて詳しく説明できる。		環境管理の手法、リスクの概念、 LCAについて概要を理解できる。		環境管理の手法、リスクの概念、 LCAについて理解し説明できない。		
評価項目2			エネルギー源の種類と発電土木の 基礎的技術について詳しく説明で きる。		エネルギー源の種類と発電士 基礎的な知識の概要を理解で 。				
評価項目:	3								
学科の発	到達目標項	頁目との関係	Ŕ						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	钳								
教育方法									
概要	め方・方法	ギー土木技 環境問題 が地域や国 環境管理の ・ ①教科書を ②評価は小	術の概要を講義飛は、自然災害とに 境を越えて地球の 手法、環境創造、 もとに作成した自 テスト及び定期記	ジボで授業を行うも は全く異なり、人間 シ大気全体に汚染と 浄化技術、エネル 目作資料等を使い授 は験8割、課題2割で	のである。 の旺盛な生産活動 なってきた深刻な ギーを生み出す発 業を進める。 評価する。	の結果が自然の記 問題である。環境 電技術を学び、E	験を活かし、環境保全の手法、エネル 周整機能を超えるレベルに達し、それ 意保全のための自然環境の基本現象、 自然との望ましい共存関係を理解する		
注意点		①課題は、 ②学業成績	期限までに提出す)ため、事前、事後 すること。 R満の者に対して再			(もりいます。 場合、再試験の成績は定期試験の成績		
 授業の属	 属件・履作	<u>「に置き扱う</u> 多上の区分							
	ティブラーニ		□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授業		
授業計画									
	Ī	週 授				週ごとの到達目	標		
		12E 1	. 環境保全 -1 自然環境の基	本現象		地球が有限であることを示す理念として用いられる 境容量について理解し説明できる。			
後期			- 1 自然環境の基			地球が有限であることを示す理念として用いられる 境容量について理解し説明できる。			
		3週 1	 -2 環境管理の手			環境保全を図るために理解すべき自然現象の複雑 組み、環境管理の手法を理解し説明できる。			
	3rdQ	4週 1	 -2 環境管理の手	 法		環境保全を図るために理解すべき自然現象の複雑組み、環境管理の手法を理解し説明できる。			
	1	5週 1	 -3 環境影響評価	 iの手法		環境影響評価の概要を理解し説明できる。			
	1		-4 環境監査とLO			リスクの概念、LCAについて理解し説明できる。			
	1		<u>- スパヨヨこと</u> -5 環境創造・浄			環境創造と環境浄化の手法を理解し説明できる。			
	1		1章のまとめ			THE SHAPE CONTRACTOR OF THE STATE OF THE STA			
		9週 2	. エネルギー -1 序論			エネルギー源の種類を把握し、環境との関連を理解し 説明できる。			
			-2 水力発電						
		11週 2	 -2 水力発電			とる。 水力発電に関する発電土木技術について理解し説明で きる。			
	4+1-0	12週 2	-3 火力発電			火力発電に関する発電土木技術について理解し説明で きる。			
	4thQ		-3 火力発電			さる。 火力発電に関する発電土木技術について理解し説明で きる。			
			-4 原子力発電			さる。 原子力発電に関する発電土木技術について理解し説明できる。			
		15週 2	-5 送変電			とさる。 送変電の施設、電力系統の計画、送電技術について理 解し説明できる。			
	1	16週							
	1	10년							

評価割合											
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計				
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100				
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100				
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0				
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0				